



◆ ファースト・セカンドレベルにも役立つ! ◆ ◆

合格レポート 完成ワークシート

クロイワ正一

ヘルメス株式会社 代表取締役
一般社団法人全国医業経営支援協会 理事



各シートを拡大してプリントアウトしたり、コピーしたりするなど、使いやすい形にしてレポート・論文のたたき台としてご活用ください。

③ 評価基準の理解

項目	評価の基準	レ
課題の理解	論点が課題に対応している	
	論旨が一貫している	
	専門用語や概念の解釈が適切である	
思考過程	事実や経験を概念化することができる	
	問題意識を持って批判的に考えることができる	
	先見性を持って変化への対応を考える	
	理論や概念を事実に適応し分析することができる	
	多面的な考察を総合して判断できる	
	今後の課題が主体的に選択できる	
論述能力	文章が明確で平易である	
	文章が論理的に構成されている	
	適切な日本語表現である	

⑦ 看護管理実践計画書の構成

はじめに	
自組織の概要	
目的・意義	
現状分析	
課題の明確化	
戦略目標の立案	
アクションプラン	
実施・評価	
まとめ	

⑧ 看護研究・論文の構成

はじめに	
目的（意義）	
方法	
結果	
考察	
結論	
文献	

⑨ 序論・本論・結論

序論	導入	
	論点	
	論	
本論	論拠	
	具体例	
結論	論の確認	
	方向性	



◆ファースト・セカンドレベルにも役立つ!◆◆

合格レポート 完成ワークシート

使い方解説とレポート作成
4つのコツ (ULTRA®)

クロイワ正一

ヘルメス株式会社 代表取締役
一般社団法人全国医業経営支援協会 理事



ワークシートの使い方

「合格レポート完成ワークシート」(以下、ワークシート)は、ULTRA[®]という「合格答案を書く4段階のコツ」を実践しながら、ネタを書き込み、自然と合格レポートの構成ができてしまうように設計されています。ULTRA[®]に従い、付属のPDFファイル「合格レポート完成ワークシート」の①から⑨までのシートを完成していくことによって、さまざまなタイプの要求に応じられます。

その応用範囲は、とても広いです。認定看護管理者教育課程ファーストレベル・セカンドレベルのレポートが完成するだけでなく、看護研究や学会に提出する論文、さらには看護管理実践計画書の構成も、このワークシートの応用で完成することができます。

たくさんのレポートを書く必要がある方は、ぜひワークシートを何枚もコピーして、拡大するなど使いやすい形にして、レポート・論文のたたき台にしてください。慣れてきたら、レポートを書くことへの苦手意識が払拭されるばかりか、執筆が楽しくなってくるに違いありません。

ULTRA[®]で書く合格レポート

では、何をどのようにワークシートに記入していけばよいか、そのプロセスであるULTRA[®]のタネ明かしをしましょう。

私は、「論理的なレポートの書き方」といったタイトルの日総研セミナーに登壇するようになって15年以上が経過します。また、日本看護協会神戸研修センターや各都道府県の看護協会、全国の病院でも「論理的な問題解決力・表現力の養成」「わかりやすい文章の書き方」といった研修を10数年にわたってファシリテートしてきました。

その結果、全国の看護管理職の皆さんから「無事にファーストを修了できました」「セカンドレベルのレポートは、自分でも不思議なくらいほとんどがA評価でした」「サードレベルの論文試験に合格しました」といった喜びの声をいただくようになりました。

セミナーや研修でお伝えしている「説得力のある文章の書き方」とは、ULTRA[®]というキーワードによって示される作業工程、いわば「合格レポートを書くための王道」です。では、ULTRA[®]とはどのようなプロセスなのでしょう。端的に言うとULTRA[®]は、文章の執筆における理解(Understand)、論理(Logic)、整理(TRimming)、表現(Action)という4段階の工程です(①)。TRimming(整理)の工程のみTとRの2文字で表します。

なお、実際にレポートを執筆する時には、それぞれの工程が済んだかどうかを①のチェック欄に「レ」を記入しながら進めるとよいでしょう。

Understand から始める理由

まず、執筆にとりかかる前に「何を書けばよいのか」(テーマと要素)、「どう書けば合格になるのか」(評価基準)など、レポートを提出する先が求めていることを理解する段階からスタートします。こ

うしたことを理解せずに執筆を始めても、すべての作業が無駄になってしまうかもしれないからです。

例えば、「看護サービスの質の向上について、パート職員の人材育成という観点から論じなさい」といったテーマでレポートを課されたのに、その理解があやふやだと、結果的にこんなレポートになってしまう可能性があります。

パート職員よりも、自部署では正職員、特に主任クラスの人材育成が喫緊の課題である。ゆえに、主任育成に重点を置いて、看護サービスの質の向上を図りたい。

これでは、合格の評価はいただけませんね。それゆえ、レポート執筆に取り組む際には、まず Understand から始めることが重要なのです。例えば、下の【例題】のような課題が出た場合、次のように書くべき要素をあぶり出し、②に書き出してみます。そして、レポートを書いた後に、チェック欄にその要素が入っているか否かを確認するとよいでしょう。

【例題】

自部署における看護サービス提供上の課題と自身の立場からの課題解決策について 1,200～1,600 字で述べなさい（本文のみ）。なお、サブテーマを「パート職員の人材育成」とし、レポートの論述内容に合った（メイン）テーマもつけること。

〈レポートに盛り込むべき要素〉

- a. 自部署における看護サービス提供上の課題について述べる
- b. 自身の立場からの課題解決策を述べる
- c. 本文を 1,200 字以上 1,600 字以内でまとめる
- d. サブテーマを「パート職員の人材育成」とすること

例題で示されたレポートを執筆し、合格の評価を得るには、少なくとも上記 a～d の 4 つの要素を満たさなければなりません。そうした指針を明らかにするために、「書くべき要素」を初めに理解しておくことが肝要なのです。

また、認定看護管理者教育課程の主催者は、レポートの評価基準も明示しています。主要な 12 の基準を③に示しました。ここでは、それぞれの基準についての詳細な解説は割愛しますが、レポートを書く前に「この基準に合うように完成させよう」といった意識を持つことは大切です。そして、書き終わった後にはすべての要素が満たされているかどうか、チェック欄に「レ」を記入しながら確認しましょう。

例えば、③の 5 番目に「問題意識を持って批判的に考えることができる」といった評価基準がありますが、「自部署で生じている問題に対して、『これではいけない』といった現状に対する批判精神は示されている」と判断できたら、この点は OK です。逆に、「現状の問題に対して、結論が『人手